



子牛価格高騰は増頭に つながっているか

村尾明利 議員

町長 減少に一定の歯止が起きている



問 島根中央家畜市場で11月の子牛競り市は、去勢牛1頭当たり平均価格が70万6千円と報じられ、5カ月連続で過去最高値を更新した。和牛子牛の高騰は、本町の畜産にどのような影響が生じているか。担い手確保につながっているか。

答 平成26年から和牛繁殖施設の再構築で増頭対策を進めており、本年2月の調査では繁殖雌牛1千54頭、飼養農家15戸で前年より9頭増加し、毎年約60頭ずつの減少に歯止めができた。担い手確保については、このような好調期でも進展していない。

問 繁殖センター事業への影響度は。



活況を呈している和牛共進会

答 農業公社が施設運営している島上の第2繁殖牧場は、当初計画の年間20頭、5年間導入は順調に進めており、11月までの導入頭数36頭である。

問 和牛子牛の高騰の次には、厳しい環境が待ち受けていると言えるがこれらの対応策は。

答 今後の対応は国による法制度の拡充や、雲南地域での振興施策の取り組み強化が重要だ。

問 本町の堆肥センター供給元である中国牧場の飼育頭数に変化はないか。堆肥不足が懸念されないか。

答 中国牧場は、肥育・繁殖合わせ1千38頭を飼育しており昨年の同期より40頭余り減少している。堆肥センターへの需要量は年々増加傾向で雲南広域の肥育センター等から供給を受けている現状で安定確保が急務な課題だ。

問 主要地方道横田多里線の道路改良は、国道394号線バイパスから暫時進行され、本年は蔵屋の報恩寺奥から400mまで整備された。その後、改良延長の計画は進んでいるか。

答 県が管理する区間の改良率は54・3%で残りの未改良区は約4kmある。県に要望するもその後の見込みはたっていない。ただ県境付近のカーブの改修などの調査費は、予算計上されている。

問 横田多里線の県境に至る未改良の沿道はほとんどが大径木に覆われた造林地で日中でも薄暗く道路は狭路で改良が急がれる。当面の対策として沿道の造林を伐採整備し、見通しをよくすることは

できないか。

答 道路沿いの木立の伐採は、個人所有で通行に支障があるものについて臨切りなど相談のうえで対応している。規格改良や部分改良などの事業上必要な土地買収以外は難しい。

問 水道課の事業を公営企業に衣替える計画と聞く。移行時期はいつか。

答 簡易水道区域を平成28年度末までに統合し、29年4月より移行する。下水道の移行は検討課題としている。

問 公営企業は、料金収入による独立採算が原則だが現状は料金収入と費用がベイしない状況だ。移行によるメリットは何か。

答 会計処理方式を単式簿記から複式簿記に移行し、経営成績や財政状況の適格な把握が可能で、さらなる経営健全化が図られる。